

小泉首相は、先ほど海外経済協力会議を開催して、凍結していた平成17年度分の対中円借款の凍結を解除し、約740億円を供与することを決定した。これに対して中川農水大臣が疑問を呈したが、全く同意である。05年度円借款は環境分野が中心であり、環境改善は双方の国益に資するとの意見もあるが、経済発展著しい安保理常任理事国でもあり大国に、しかも今までに4兆円程度の協力をしているにも関わらず、感謝どころか逆に意図的か否か反日気運が醸成され、軍備増強も著しい、北朝鮮等に援助しているなどをもっての外である。北京五輪を機に打ち切りが決定されているが、遅過ぎたと言われても仕方ない。賠償の代替でないと言前では言っても、本音が垣間見える。何れにしろ、ODAにあたっては日本の国益に死する事を第一義的に考えるべきである。対中ODAは国益に反する。

防衛庁の省昇格が閣議決定されて国会に上程されたことは喜ばしく慶賀に耐えないところであり我々の悲願が実現することが期待される。然しながら、継続審議になるようだ。何故に首相は本案はじめ他の重要法案を全て先送りしようとするのだろうか、その真意が解りかねる。次期首相候補たる者が行動しやすい環境を作為せんとしようとしているのか。何れにしろ無責任の謗りを免れないだろう。



(平安大辞典所載)

さて、2006FIAA ワールドカップが開会し、各グループの熱戦が展開され熱気が高まって来たようだ。暫くは寝不足が続くことになるのかもしれない。

日本代表のユニフォームのマーク（日本サッカー協会のシンボルマークでもある。）は、神武天皇東征に際し熊野から大和への道案内をしたと言われていた伝説上の3本足の鳥、八咫鳥である。

記紀（日本書紀、古事記）にはどちらにも同じような記述があり、神武東征軍が熊野から奥地に進み、荒ぶる神々に苦戦している時に「今、天より八咫鳥を遣わす。この鳥の先導によって軍を進めよ」といわれ、その導きによって大和の国に入った」と書かれてある。

熊野三山においては、鳥はミサキ神（死霊が鎮められたもの。神使）として信仰されており、この氏族が神武天皇の東征に際して協力をしたと言うことなのだろう。

八咫鳥の咫というのは、「あた」と呼んで長さの単位である。1「あた」が親指と人差し指を広げた長さで約18センチメートルであり、八咫とはこの八倍を意味するが大きいという意味に解するのが適当だろう。

世界各地に三本足の鳥の神話が伝えられており、太陽と関連付けられているとの事である。太陽の黒点を鳥と見立てたとの説が有力である。また、法隆寺の国宝玉虫厨子の裏側にも三本足の鳥が描かれており、明日香村のキトラ古墳天文図の太陽の中に三本足の鳥が描かれているという。八咫鳥？

八咫鳥は前述したように、日本サッカー協会のシンボルマークである。日本に近代サッ

カーを紹介した和歌山那智勝浦出身の中村氏に敬意を表し熊野大社の八咫鳥をデザイン化してシンボルマークとしたのである。

ちなみに八咫鳥と命名された小惑星がある。

対豪戦まで後一時間半である。続きは試合終了後にする。新たなる歴史が作られるのであろうか。日本頑張れ。タイトルは試合後に考える。

初戦勝利を目前にして、立て続けに三失点、残念無念である。守りに入ったのか、シュート力の差か、再三のゴール前でのチャンスを活かし切らなかったのも悔いが残る。最小限の必成目標である一次リーグ自力突破に向けてブラジル戦引き分けを目指して貰いたいものだ。